



「ふくい安全・安心飲食店認証制度」 認証基準・チェックリスト

○認証の要件

- 貴社の店舗（複数ある場合は1店舗ごと）について、次の認証基準を全て満たすこと**（チェックリスト全61項目）。 ※ただし、エレベーターや送迎車（基準⑦、⑧）、テーブルやカウンター（基準⑨、⑩、⑪）、ビュッフェ等（基準⑳）、カラオケ（基準㉓）などの設備がない場合、接待（基準㉔）やライブ等（基準㉕）の業態がない場合、これらの項目はチェックの対象外となります。
- 現地調査時にマスク会食の実施率が概ね50%に達していること。**
- 上記要件を満たさず、認証できなかった場合でも、必要な項目に対処した上で、認証を再申請することができます。

○認証基準

I 来店者の感染予防

(1) 入店・注文・支払い時

- ① 店舗入口に、熱・咳・咽頭痛・倦怠感・息苦しさ等の症状が認められる場合には入店を断る旨を掲示し、体調不良者（出入り業者を含む）の入店を断る。
→<チェックリスト> 1 発熱者等の入場禁止張り紙
- ② 店舗入口および店内各所に消毒液（消毒用アルコール等）を設置し、入店時に必ず従業員が来店者に呼びかけ、手指消毒を実施してもらうとともに、在店中はトイレ使用後など定期的な手洗い・手指消毒を要請する。
→<チェックリスト> 2 店舗入口および店内各所への消毒設備の設置 **重要**
3 入店時や在店時の定期的な手指消毒の要請 **重要**
- ③ 順番待ち等により列が発生するなど密な状況が発生する場合は、対人距離を最低1m（マスク着用がない場合は2m）確保するように表示・誘導を行う。
→<チェックリスト> 4 順番待ち客の誘導・対人距離の確保
- ④ 会話時のマスク着用（マスク会食）について、「おはなしはマスク」やマスク会食を促す趣旨のポスター、POPの掲示等により周知するとともに、来店者の入店時に声がけして実施を促す。その際、正当な理由なくマスクを着用していない来店者に対してはマスクを配布する。
→<チェックリスト> 5 「おはなしはマスク」やマスク会食を促すポスター等の掲示、声かけ、マスクの適宜配布 **重要**

※正当な理由

来店者が有する疾患や障害等によりマスク着用が困難な場合や、窒息や熱中症のリスクが高いとされる子どもであること等が該当（以下、マスク着用の規定については、正当な理由があり子どもでない場合はフェイスシールドやマウスシールド着用等と読み替え）

- ⑤ レジ等での対面接客時に、アクリル板、ビニールカーテン、パーティション等による仕切りを設置する。
→<チェックリスト> □6 レジへのアクリル板等の設置
- ⑥ 会計の際は、コイントレイを介した受け渡しを行う。またはキャッシュレス決済を導入する。
→<チェックリスト> □7 コイントレイによるお金の收受もしくはキャッシュレス決済の導入
- ⑦ 店内にエレベーターが設置されている場合は、乗員制限を行う。
→<チェックリスト> □8 エレベーターがある場合の乗員制限
- ⑧ 送迎車がある場合は、乗車人数を制限し、送迎者の運転席と後部座席をアクリル板、ビニールカーテン等で遮蔽する。
→<チェックリスト> □9 送迎車がある場合の乗車人数制限、車内アクリル板等の設置

(2) 食事・店内利用時

[テーブル・カウンター間の配置]

- ⑨ 利用者を席に案内する時は、他グループとの同一テーブルでの相席は避け、テーブル・カウンター間の配置について以下のいずれかの方法により飛沫感染防止を図る。
- ・同一グループが使用するテーブルとその他のグループが使用するテーブル（又はカウンター）の間は、テーブルとテーブル（又はカウンター）との間隔を最低1m以上確保できるように配置する。
 - ・同一グループが使用するテーブルとその他のグループが使用するテーブル（又はカウンター）の間に、アクリル板等のパーティション（目を覆う程度の高さ以上のものを目安、以下同じ。）による仕切りを設ける。
- <チェックリスト> □10 別グループのテーブル間は、1m以上あける、またはパーティション等で遮蔽 **重要**

[同一グループのテーブル席の配置]

- ⑩ テーブル席においては、以下のいずれかの方法により飛沫感染防止を図る（少人数の家族、介助者同席の高齢者・乳幼児・障害者等が対面または隣席での着座を希望する場合は除く）。
- ・真正面での座席配置をしない。隣席との間隔を1m以上空ける。
 - ・テーブル上に、アクリル板等のパーティションによる仕切りを設ける。
- <チェックリスト> □11 真正面の座席配置をせず、座席間隔を1m以上あける、

またはパーティション等で遮蔽 **重要**

〔カウンター席の配置〕

- ⑪ カウンター席は、以下のいずれかの方法により飛沫感染防止を図る（少人数の家族、介助者同席の高齢者・乳幼児・障害者等が隣席での着座を希望する場合は除く）。

- ・隣席との間隔を1m以上空ける。
- ・隣席との間にアクリル板等のパーティションによる仕切りを設ける。

→〈チェックリスト〉 □12 座席間隔を1m以上あける、またはパーティション等で遮蔽 **重要**

〔全般〕

- ⑫ 最初の接客時（水出し、注文時など）に、「マスク会食推進店であること」「マスク会食用のマスクを提供できること」を伝え、食べている間であっても会話の際はマスクを着用（マスク会食）するよう要請する。また、その後、料理等の提供の際などに適宜、マスク会食を促す。

→〈チェックリスト〉 □13 利用客に対するマスク会食実施の要請 **重要**

- ⑬ 滞在時間の制限（目安は2時間程度）や予約制の活用などにより同時に多数の人が集まらないようにする。

→〈チェックリスト〉 □14 滞在時間の制限（目安2時間）や予約制の活用

- ⑭ 料理は大皿盛りを避け、個々に提供する、もしくは従業員が取り分ける。

→〈チェックリスト〉 □15 大皿は避け、個食で提供

- ⑮ お酌や回し飲み、箸やスプーンなど食器の共有、使い回しを避けるよう注意喚起する。

→〈チェックリスト〉 □16 お酌・回し飲みや食器等の使い回しをしないよう注意喚起

- ⑯ 卓上に共用の調味料、ポット類の設置を避けるか、これらを利用者入れ替え時に消毒する。

→〈チェックリスト〉 □17 卓上の調味料は設置しない、または客の入替時に消毒

- ⑰ 店内BGMの音量を下げ、掲示等により大声での会話を避けるよう注意喚起する。

→〈チェックリスト〉 □18 BGMの音量を低くし、大声で会話しないよう注意喚起

- ⑱ 適宜、咳エチケットを徹底するよう注意喚起する。

→〈チェックリスト〉 □19 咳エチケットの注意喚起

- ⑲ 個室を使用する場合は、常時換気（換気基準は「3 施設・設備の衛生管理の徹底」のとおり）を行う。

→〈チェックリスト〉 □20 個室使用時の常時換気

- ⑳ トイレには、ふたを閉めて汚物を流すこと、使用後に手洗いや手指消毒を行うよう表示する。

→〈チェックリスト〉 □21 トイレの蓋閉め洗浄、トイレ後の手洗い・消毒の表示

- ⑳ 喫煙スペースがある場合には、一度に利用する人数を減らす、対人距離を確保するなど3つの密を避け、会話時はマスクを着用するよう促す。

→<チェックリスト> □22 喫煙スペースにおける3密防止、会話時のマスク着用要請

重要

[ビュッフェスタイル、サラダバー、ドリンクバー等]

- ㉑ ビュッフェスタイル、サラダバー、ドリンクバー等の形態で料理を提供する場合は、以下の措置を全て講じる。

- ・利用者に、料理を取る際にマスクを着用するよう要請する。
- ・従業員が予め一回の取り分け分ごとに小皿やコップ等に取り分けるか、利用者が使い捨て手袋等を着用し料理を取る（取り分け用の tong や箸等を共有しないことを徹底する）。
- ・料理に飛沫がかからないようカバーを設置する。

→<チェックリスト> □23 料理を取る際のマスク着用の要請 **重要**

□24 予め従業員が取り分け、または利用者用使い捨て手袋の用意
(取り分け用の tong や箸等を共有しないことを徹底)

□25 料理保護カバーの設置

[カラオケ設備がある場合]

- ㉒ 店内にあるカラオケ設備を利用する場合は以下の全てを実施し、身体的距離の確保や飛沫拡散防止を図る。

- ・歌唱者にマスク着用を要請する。
- ・デュエット、ダンス等の密接する場面や、掛け声や大声と一緒に歌う行為の自粛を要請する。
- ・対人距離を1m以上確保することを要請するか、またはアクリル板等のパーティションによる仕切りを設置する。
- ・マイクは都度消毒液（消毒用アルコール等）で清拭する。
- ・ステージの場所を特定し、客席とステージの距離を2m以上確保するか、またはアクリル板等のパーティションによる仕切りを設置する。
- ・上部の換気設備を常時稼働（基準は店舗内と同じ）する。または近くで空気清浄機等を併用しながら換気を行う。

→<チェックリスト> □26 歌唱時のマスク着用を要請 **重要**

□27 デュエット、ダンス等のほか大声を出す行為の自粛要請

□28 対人距離を1m以上確保、またはパーティション等の設置

□29 マイクは都度消毒

□30 客席とステージの距離を2m以上確保、またはパーティション等の設置

□31 換気設備を常時稼働

[接待を伴う場合]

- ㉓ 接待を伴う場合は、以下の全てを実施し、身体的距離の確保や飛沫拡散防止を図る。

- ・利用者に、店内では料理や飲み物などを口に運ぶ時以外は常時マスクを着用すること、過度な大きさや頻度の声出しおよび身体接触をしないことを要請する。
- ・従業員に、会話時のマスク着用、過度な大きさや頻度の声出しの禁止および利用者との対人距離1m以上の確保（またはパーティションによる仕切りの設置）について周知徹底する。
- ・定期的に、利用者および従業員のマスクの着用、過度な大きさや頻度の声出しがないこと、

対人距離が1 m以上確保されていること（又はパーティションによる仕切りが設置されていること）を確認する。

- <チェックリスト> 32 店内での常時（料理等を口に運ぶ時以外）のマスク着用を要請、大声を出すことや身体接触の自粛要請 **重要**
- 33 対人距離を1 m以上確保、またはパーティション等の設置
- 34 従業員による上記項目の定期的な確認

〔ライブ、ダンス・ショー等〕

②⑤ ライブ、ダンス・ショー等を実施する場合は以下の全てを実施し、身体的距離の確保や飛沫拡散防止を図る（客席の近距離で行うものを対象とし、飲食料金とは別に観覧料や参加料を設定している催物については除く）。

- ・ 演者（歌唱や発声をする者を含む）にマスク着用を要請する。
- ・ 利用者に歓声、声援など大声を発しないように要請する。
- ・ 演者間について、1 m以上の対人距離を確保するか、またはアクリル板等のパーティションによる仕切りを設置する。
- ・ マイクは都度消毒液（アルコール消毒液等）で清拭する。
- ・ ステージの場所を特定し、客席とステージとの距離を2 m以上確保するか、またはアクリル板等のパーティションによる仕切りを設置する。
- ・ 上部の換気設備を常時稼働（基準は店舗内と同じ）する。または、近くで空気清浄機等を併用しながら換気を行う。

- <チェックリスト> 35 演者等のマスク着用を要請 **重要**
- 36 利用者に歓声、声援等大声を出さないよう要請
- 37 対人距離を1 m以上確保、またはパーティション等の設置
- 38 マイクは都度消毒
- 39 ステージの場所を特定し、客席との距離を2 m以上確保、またはパーティション等の設置
- 40 換気設備を常時稼働

II 従業員の感染症予防

②⑥ 調理従事者を含め、常にマスクを着用し、咳エチケットを徹底する。大声での会話、長時間の会話を避ける。

- <チェックリスト> 41 マスクの常時着用、咳エチケットの徹底 **重要**
- 42 大声、長時間の会話回避

②⑦ 出勤時に検温・体調確認を行うとともに、発熱や軽度であっても風邪症状（咳やのどの痛み等）、嘔吐・下痢等の症状がある場合は、出勤を停止させる。

- <チェックリスト> 43 出勤前の検温・体調確認
- 44 体調不良時の出勤停止

②⑧ 感染した、もしくは感染疑いのある従業員、濃厚接触者と判断された従業員の就業は禁止する。

→<チェックリスト> □45 感染者、濃厚接触者となった場合の就業禁止（疑い時含む）

- ②9 定期的に、かつ、就業開始時や他者の接触が多い場所・物品に触れた後、清掃後、トイレ使用後などに手指消毒や手洗いを実施する。

→<チェックリスト> □46 定期的な手指消毒・手洗い

- ③0 利用者からの注文の受付や料理の提供に当たっては、利用者の正面に立たないように注意し、対人距離（最低1m以上）を確保する。

→<チェックリスト> □47 客との対面位置・距離の注意

- ③1 休憩スペースでは、以下の措置を全て講じる。

- ・マスクを着用し、一度に休憩する人数を減らし、対面での食事や会話を避ける。
- ・常時換気（基準は店舗内と同じ）を行い、共用する物品は定期的に消毒する。

→<チェックリスト> □48 休憩スペースでのマスク着用、対面での食事等の回避

重要

□49 休憩スペースの常時換気・定期消毒

- ③2 従業員のユニフォームや衣類は定期的に洗濯する。

→<チェックリスト> □50 ユニフォームの定期洗濯

Ⅲ 施設・設備の衛生管理徹底

〔建築物における衛生的環境の確保に関する法律（以下「建築物衛生法」という。）の対象施設（特定建築物※）に該当する場合〕

- ③3 建築物衛生法に基づく空気環境の調整に関する基準を満たしているか確認し、満たしていない場合は、換気設備の清掃・整備等の維持管理を適切に行う。

→<チェックリスト> □51 空気環境調整に関する法令基準の遵守、または換気設備等の適切な維持管理 **重要**

〔建築物衛生法の対象施設（特定建築物）以外の場合〕

- ③4 店舗内において、以下のいずれかの方法により適切な換気を実施している。

- ・機械換気（機械換気設備、換気機能を持つ冷暖房設備等）により必要換気量（一人あたり毎時30m³）を確保すること。換気量が足りない場合は、入店者数を調整して一人あたりの必要換気量を確保するとともに、換気設備の清掃・整備等の維持管理を適切に行う。
- ・窓の開放による換気の場合は、1時間当たりの換気回数を2回以上確保するため、30分に1回、5分程度、2方向の窓またはドアの一部を開放する。また、換気のため、窓やドアを開放している旨を利用者に周知し、協力を要請する。

→<チェックリスト> □51 必要換気量（1人30m³/時）の確保、または窓開放による換気（30分毎に2方向の窓等を5分全開） **重要**

※上記の□51については、基準③3、③4のいずれか該当する方にチェックを入れてください。

※特定建築物の定義（厚生労働省ホームページより）

次の項目をすべて満たす建築物

- (1) 建築基準法に定義された建築物
- (2) 1つの建築物において、次に掲げる特定用途の1又は2以上に使用される建築物
特定用途：興行場、百貨店、集会場、図書館、博物館、美術館、遊技場、店舗、事務所、学校（研修所を含む。）、旅館
- (3) 1つの建築物において、特定用途に使用される延べ面積が3,000㎡以上であること。
ただし、学校教育法第1条に定められている学校（小学校、中学校等）については、8,000㎡以上であること。

※必要換気量の確認方法

- 1 店舗が特定建築物、もしくは特定建築物内にある場合
 - ・「建築物の完成図書」、「空調設備平面・断面系統図」、「主要空調機器の一覧表」、「空調設備の整備記録」等により店舗内の機械換気設備・換気機能を持つ冷暖房設備の換気量（㎡/時）および定員を確認
 - ・さらに、直近2ヶ月以内の空気環境測定の結果を確認し、店舗内または店舗に一番近い測定場所で行われたものの二酸化炭素の含有率の測定値を確認
 - ・上記図書等が無い場合は、設置されている機器の型番を確認し、メーカーのホームページなどにて仕様を確認

・店舗がテナント等のため申請者が把握していない場合は、建物の管理者等に上記について問い合わせ確認

- 2 店舗が建築物衛生法の対象施設以外の場合
 - ・店舗内の機械換気設備・換気機能を持つ冷暖房設備の換気量を確認（設置製品の説明書仕様書やメーカーのホームページなどで確認可能）
 - ・対象店舗がテナント等のため申請者が把握していない場合などは、建物の管理者等に問い合わせ確認

[共通]

③⑤ 湿度40%を目安として、適度に加湿する。

→<チェックリスト> □52 湿度40%を目安に加湿

③⑥ 手洗い場のハンドドライヤーや共通のタオルを使用せず、ペーパータオルを設置するか、個人のタオル等の使用を促す。

→<チェックリスト> □53 共通タオルの禁止（ペーパータオルの設置）

③⑦ 他人と共用する物品や複数人の手が触れる場所を消毒用エタノールや次亜塩素酸ナトリウム、市販の界面活性剤含有の洗浄剤を用いて、利用者の入替時など定期的に清拭消毒する。

→<チェックリスト> □54 共用物品・スペースの定期消毒

※飲食業で他人と共用し接触が多い部位

テーブル、いす、メニューブック、調味料、ドアノブ、電気のスイッチ、タッチパネル、卓上ベル、レジ、蛇口、手すり、便座、洗浄レバー、コイントレイ、券売機、アクリル板など

- ③⑧ ごみを回収する者はマスクや手袋を着用し、作業後、必ず手を洗う。
→〈チェックリスト〉 □55 ゴミ回収時のマスク・手袋着用
- ③⑨ 食品残さ、鼻水、唾液などが付着した可能性のあるごみ、おしぼり等はビニール袋に密閉して処理する。
→〈チェックリスト〉 □56 食品残さ・おしぼり等のビニール袋密閉処理

IV チェックシートの作成・公表

- ④⑩ 店内のリスク評価をしたうえで、感染予防策の実施に係るチェックシートを作成し、毎日の実施状況を記録するとともに、手指消毒、食事中以外のマスク着用、座席の間隔の確保、適切な換気、共用箇所の消毒、従業員の検温・体調確認などの実施状況の概要を店頭に掲示するなどして公表する。
→〈チェックリスト〉 □57 感染防止点検チェックシートの作成・確認結果の公表

V 感染者発生に備えた対処方針

- ④⑪ 店舗の従業員の感染が判明した場合、保健所の指示・調査等に誠実かつ積極的に対応・協力し、当該店舗からの感染拡大防止策を講じるとともに、必要に応じ感染の可能性のある営業日など感染拡大防止のための情報を公表する。
→〈チェックリスト〉 □58 従業員における感染者発生時の保健所への協力・必要な情報の公表
- ④⑫ 従業員に対し、感染疑いがある場合は検査結果が判明するまで出勤を控えることなど、感染拡大を防止する上で適切な行動を徹底するための研修機会を設ける。
→〈チェックリスト〉 □59 従業員に対する研修機会の提供
- ④⑬ 保健所が行う積極的疫学調査の結果、感染者が当該店舗を利用していたことが判明した場合、保健所の助言・指示等に誠実かつ積極的に対応・協力して、当該店舗を媒介とした感染拡大を防止する対策を講じるとともに、必要に応じ感染の可能性のある営業日など感染拡大防止のための情報を公表する。
→〈チェックリスト〉 □60 利用客における感染者発生時の保健所への協力・必要な情報の公表
- ④⑭ 感染リスクの早期把握のため、国が提供する濃厚接触通知アプリ「cocoa」の利用をルール化、もしくは奨励する。
→〈チェックリスト〉 □61 接触確認アプリ「cocoa」の利用奨励